

2021 年度第 1 四半期決算説明会（2021 年 8 月 5 日） 質疑要旨

➤ 21 年度予想（前回予想比）

Q1： 在庫評価影響除きの経常利益では、前回比△5 億円の悪化となる。差異要因を教えてください。

A1： 主な要因は、数量構成+55 億円、メタルスプレッド△225 億円、コスト増減+40 億円、関係会社+50 億円、その他で+75 億円。

これを上期・下期に分けると、上期+65 億円、下期△70 億円。

- ・ 上期：鉄鋼のスプレッド悪化があるが、建設機械、アルミ板・素形材のコスト改善等でプラス。
- ・ 下期：鉄鋼のスプレッド悪化、建設機械の鋼材調達コストの上昇等によりマイナス。

➤ 21 年度予想（上期対下期比較）

Q2： 上期と下期を比較した場合の主な差異内訳を教えてください。

A2： 上期 320 億円、下期 380 億円であり、段差は+60 億円である。

主な差異内訳は、メタルスプレッドの改善+260 億円。また、自動車向けを中心とした需要増加により、数量構成+50 億円。一方、在庫評価影響△115 億円、コスト増減△75 億円など。

セグメント別では主に次の通り。

鉄鋼：+130 億円

【内訳】メタルスプレッド改善+260 億円、在庫評価影響△90 億円

建設機械：△80 億円

【内訳】季節的要因による中国での販売台数の低下等の影響△30 億円、

鋼材調達価格の上昇△20 億円など

➤ 21 年度予想（1Q 実績対 2Q 予想比較）

Q3： 1Q 実績と 2Q 予想の主な差異内訳を教えてください。

A3： 1Q 実績と 2Q 予想の差異は△158 億円（1Q:239 億円、2Q:81 億円）となる。

主な差異内訳は、鉄鉱石や銅地金の値上がり幅の縮小に伴う在庫評価影響△115 億円。残り△43 億円は、減価償却費やエネルギーコストの増加など。

主なセグメント別では次の通り。

鉄鋼アルミ：△100 億円（鋼材：△76 億円、アルミ板：△24 億円）

【要因】鉄鋼の在庫評価影響：△80 億円

アルミ板のエネルギーコスト上昇、コスト増減等：△24 億円

素形材：△45 億円

【要因】在庫評価影響：△35 億円

➤ 素材系事業

- Q4：メタルスプレッドの悪化を想定しているが、いわゆる「紐付き」の期ずれ影響はどの程度か。
- A4：2020年度と2021年度今回予想で比較すると、285億円の悪化を想定している。
- Q5：鉄鋼事業について期ズレによるスプレッドの悪化を想定している一方、マージン改善の取組みは現在どのような状況なのか。
- A5：自動車を中心とする、「紐付き」のお客様には、主原料や金属や運賃面もコストアップしているため、丁寧に説明しマージン改善を粘り強くお願いしていく。
鋼材事業の収益力強化については、中期経営計画で示した通り、海外事業の収益化や固定費の削減に取り組んでいる。足元、海外においては、鋼材市況の上昇を背景に米国のPROTEC、タイのミルコンの業績が改善している。
- Q6：下期の主原料価格の想定について教えてほしい。
- A6：中国の粗鋼減産等により下期にかけて、鉄鉱石、石炭の価格が下落していくと想定している。
具体的には、鉄鉱石は1Q、2Qは確定している。(P.35 ご参照) 3Qは、2Qより若干上昇するが、4Qは戻ると想定している。
石炭は、1Qは確定しており、2Qは1Qより上昇し、3Q・4Qは戻ると想定している。
- Q7：アルミ板の在庫評価影響を除く経常利益は、2Qが赤字、下期も弱い予想となっている。主な要因を教えてほしい。
- A7：アルミ板は、自動車軽量化戦略への取り組みとして中国、韓国、日本で設備能力を増強した一方、需要の拡大時期が想定より後ろ倒しになっており、投資回収が遅れている状況である。
今後、自動車軽量化対応メニューにおいて受注を獲得していくとともに、収益が好調な飲料用の缶材やIT・半導体向けなどの他のメニューで、アルミ板全体の収益を改善させていく。

➤ 機械系事業

- Q8：機械では受注増を見込んでいるが、具体的にどの分野か教えてほしい。
- A8：産業機械では、大型の案件としては中国向けの樹脂機械の受注がある。
回転機では、中国の石油化学向けが堅調。
- Q9：建設機械では、中国の需要は増えている中、競争が激化しているとのことだが、中国マーケットの状況を具体的に教えてほしい。
- A9：総需要は増加傾向だが、春節明けを需要は減少している。天候不順や、環境監査による操業停止などの一時的な影響もあり、状況を見極めていく。価格に関しては下押し圧力が働き、厳しい状況である。
当社の対応として、既存のショベルのビジネスについては、サービスサポート体制の充実も含めて、当社のプレゼンスを一定程度維持していきたい。また、中国だけでなく、東南アジア、インド市場でも中国勢のプレゼンスが高まっており、対抗機種を新たに開発・販売していきたい。

Q10：（P.29）建設機械の業績見通しについて、下期の経常利益をゼロと想定しているが、鋼材価格上昇のほかに、米国でエンジン認証問題など特殊な要因があるのか。

A10：まず、中国においては、需要期が春節のある上期（1-6月）に偏るため、下期（7-12月）の販売台数が相対的に少ない傾向がある。
次に、鋼材調達コストの上昇だが、今回の予想には、お客様への転嫁を織り込んでいない状況であり、今後、一定程度の値上げによる改善を図っていきたい。
北米のエンジン認証問題については、北米工場の一時閉鎖などを実施しているが、日野自動車様に一定程度の求償を含め協議していく予定であり、損益影響は軽微と見込んでいる。

➤ 21年度業績予想（その他）

Q11：中期経営計画で言及していた海外事業や不採算事業の足元の状況はどのようになっているのか？

A11：主な海外事業、不採算事業の状況は次の通り。

- 米国 PROTEC：鋼材市況がよいため、業績は改善傾向。ハイテンの新ラインの認証手続きをお客様のほうで進めていただいております、量産体制に早くこぎつけたい。
- 中国（天津）KARP：自動車向けのアルミパネル需要が非常に好調で、半導体不足の影響も出ておらず、想定以上の生産水準となっている。
- 鋳鍛鋼：ダウンサイジング（要員削減）が計画よりも前倒しで進捗。
また、コストダウン、不採算メニューからの撤退、価格改善などに取り組み、黒字化については、計画通り22年度を目指している。
- チタン：航空機向けの大型鍛造品については、採算性を考慮した選別受注を実施。
燃料電池車向けのNCチタン箔は計画通り量産中で収益の底上げに貢献。
計画通り、今期での黒字化を達成する見込み。

Q12：（P.42）前回予想と比較してフリーキャッシュフローが+250億円改善しているが、業績予想の上方修正の主な要因である在庫評価影響はキャッシュフローには影響しない。（※在庫評価影響除きの経常利益では350億円→345億円の△5億円）
キャッシュフローと損益の関係性を解説してほしい。

A12：フリーキャッシュフローが+250億円改善している理由としては、

営業キャッシュフロー：+200億円改善

経常損益の主な改善要因は在庫評価影響の改善であるため、キャッシュフローに影響がないのはご指摘の通りである。その他の要因としては運転資金の改善が中心であり、主に、主原料価格の高騰下、鋼材の売上債権の回収と主原料支払のサイト差が影響し、今年度は一時的に運転資金が改善する見通し。

投資キャッシュフロー：+50億円

設備投資を厳選する取り組みを進めるため。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。